









(八)

附寺々より聲く白八哀悼の梵鐘の般々愁を含むかと座る悲愴の感に打たれぬ奉悼詞左の如し

## 岐林蘇友

第五回

掛ケマクモ畏クモ遙ニ東天ヲ拜シ明治天皇ノ御神靈ニ白ス曩ニ天皇御登遐ノ日天日忽チ昏レ四海常闇ノ世トナリ萬民悲慟哀痛シテ赤子ノ慈母ヲ喪ヘルヨリ甚シキモノアリキ今茲ニ畏クモ御大葬儀ニ際シ更ニ痛哭涕泣ノ新ナルヲ加フ青川ノ原愁雲漠々人天共ニ哭臣等蒼生何ノ辭カ天皇ヲ悼ミ奉ラス恭シク惟ミルニ天皇ノ御盛德御大業ハ赫々トシテ日月ト其ニ光ヲ爭ヒ煌々トシテ千載ヲ照スモノアリ即チ天皇天シ給フト雖モ尙儼トシテ在シマスガ如シ臣等蒼生ハ只之ヲ思ヒテ聊カ自ラ慰メソノミ然リト雖モ玉音遂ニ聞クニ由ナク奉公ノ道空シク茲ニ絶エントス天皇海岳ノ恩夫レ河レノ日カリ哉茲ニ御大葬儀ニ當リ涙ヲ揮ツテ聊カ燕辭ヲ運ネ誠恐誠懼謹ミテ亦誠ヲ披瀝シ至痛哀切ノ微忱ヲ表シ奉ル

大正元年九月十三日

長野縣立木曾山林學校長

從七位 安藤時雄

第五回

## 岐林蘇友

第五回

して道を蔽ひ恰も大アーチを連結してゐるが如し一行は路傍に佇ずみ七宮先生より本多博士の賤母林道を遊覽地と爲すの設計案等を承りて歸途につく途中吾妻村妻籠青年園の經營にかゝはる城山公園に登る公園は天正十年の頃木曾義昌が築きし城趾にて二留野驛より五町餘の山頂にあり脚下には岐蘇の清流を挟みて御料林繁茂し中仙道に沿ふて右顧すれば黃綠の田畑一帯の森林を隔て三留野部落を摸糊の間に眺む、一行は山腹にある林龜十郎氏の別邸の縁側に景趣を賞し且憩ひ雨脚の止むを待ちて旅舍に歸り再び旅装を整へて大原苗圃に向へり大原苗圃は三留野驛を去る十七町餘にして御料局の總面積五町七反八畝歩内苗床面積二町八反歩當苗圃は霜柱の害甚だしきを以て苗床は總て板を以て圍はり而して板はサハラを用ひ厚さ一寸五分巾七寸位のものにて一枚に付坪四錢當りを要す其保存年限は十三年位とす此板圍に要する杭は一本に付五厘にして床約三坪に付十本を要す坪四十錢但材料は苗圃の周圍より集取す地接手入費は坪三錢當りとす

當苗圃は霜柱の害甚だしきを以て苗床は總て板を以て围はり而して板はサハラを用ひ厚さ一寸五分巾七寸位のものにて一枚に付坪四錢當りを要す其保存年限は十三年位とす此板圍に要する杭は一本に付五厘にして床約三坪に付十本を要す坪四十錢但材料は苗圃の周圍より集取す霜除霜は十月下旬より降り初め三月下旬を以て終る其霜害を除く方法は播種床に於いては落葉(潤葉樹)を苗床一面にみたし其上にバラ藁を布き鐵線を以て壓す而して落葉は坪一貫五百匁を要す落葉採

敬意奉悼の意を表することに相成殊に十三日は外出を停止し夜は消燈せず徹夜の覺悟にて奉悼の意を表し十四日夜は八時より無之候間之にて擋筆致候勿々

## 御料林視察日誌

三年記者

九月八日日曜

雨發學校至三留野

六時二十分上り列車にて野尻に向ふ豫定の如く集りて豫定の定く乗車せり轟々内にて本校に來臨せられ校長の請によりて職員生徒の爲に一場の講話を試みられたり要は學問を勵みて將來有爲の人物となり林業界の爲大に貢献せん事を希望せられたるが伯爵が寸暇を偷みて本校に來臨せられ加之一場の講話をへせられたるは本校の光榮にして深く感謝に堪へず

## 寄宿舎通信

寄宿舎の近況御一報申上ぐ可く候、暑中休暇のため暫らく健兒の傍を止めざりし我が

寄宿舎は去る一日を以て再開舍され申候、一ヶ月間の歸省に依りて何れも英氣勃々各

職員生徒を講堂に集め御大喪儀に就ての所感を語られ國民が先帝に對しまつる純忠無二の精神は此千載一遇の時に當りて遺憾なく發揮せられれば取りも直さぬ先帝の崩

は語の花を咲かせ申候、然かし瘡せ蚤の猛烈なる襲来には少なからず閉口仕り候、此例年の通り登山的修學旅行は各級共八日出發二泊して十日の午後無事歸舍仕り候、此の間連日の降雨なりしため宛然川鼠の如くビショぬれにて婦り申候、十三、四、五、の三日間は御大葬に付學校

歸省中の珍談奇話に何れの室も二三日が程は話の花を咲かせ申候、然かし瘡せ蚤の猛烈なる襲来には少なからず閉口仕り候、此例年の通り登山的修學旅行は各級共八日出發二泊して十日の午後無事歸舍仕り候、此の間連日の降雨なりしため宛然川鼠の如くビショぬれにて婦り申候、十三、四、五、の三日間は御大葬に付學校

は授業を休み舍生一同は舍内に極りて謹慎

列車は須原驛を經て野尻に至る吾等一行は

茲にて下車し野尻の町をすぎて帝室林野管

理局出張所を訪ぶ折しも日曜の事とて門は

閉され居たれば止むなく一行はとある人家

の軒場を借りて雨を凌げり、此日は野尻よ

り徒步にて大原苗圃に立寄りうれより三留

野に向ふ豫定なりしも雨烈しきと右苗圃は

三留野驛より行く方近きとの理由によりて車窓の眺めいと淋しく感じぬ、列車は二十分餘にして上松驛に到着し茲にて一二年

生の登山隊と別れを告げ互に旅中の健康を祈りぬ

九月九日月曜雨天

自三留野至阿寺北澤鑛泉

万四千五百本三回床替のもの五万本他へ讓

木費は一貫目につき二錢位のものなり

床替苗の霜柱の害に罹りたるものは之を

直ちに抜き取り來春まで假植し置くもの

とのなり而して一坪に付工作賃六錢黃一

枚三十錢(巾三尺八寸長六尺)黃保存期は

十年位にして内一回編み直しをなすもの

なりと

肥料播種床に於ては基肥として床作の際

種粕を四合施して七八月の候に至り補肥

として種粕を粉をなし坪二合當りに撒布

を施し七八月に至り補肥として種粕を水

に混じ少し腐敗せしめたる後稀薄にして

害虫は毎年多くの根切虫發生し多大の被害

あり故に此驅除法として竹杭の細きもの

をとり先端を尖らし之れを以て刺殺す此仕事は最も熟練を要するものにして多く

女人夫を使役す而して熟練したるものは

人夫賃男人夫最高六十錢最低四十錢平均

十六萬二千本内地へ讓渡したもの百十三

譲渡したもの四十五万本二回床替苗木數

本年一回床替苗木數二百二十五万本内他へ

だ困難にして爲に事業も他の材木所に比し

因に本材木地は極めて傾斜地にして加ふる

に渓谷は岩石突兀として集材事業實行上甚

くられより本谷口に下り蒸氣の響應を蒙り

構造及シユラ、サデ等につき説明を聞

こゝにて諸兄に別れを告ぐ



(二十)

## 會費領收報告

貳圓二錢平澤政吉君壹圓宛高橋博君倉科浦一郎君山村治一君五十錢宛森巖君市川潔君

○江畠前校長へ紀念品贈呈

に付金員寄附者左の通り

貳圓高橋博君山村治一君壹圓五拾錢原七郎君壹圓宛長谷川芳雄君倉科浦一郎君樋口勇市川合清行君森巖君藤巻壽一君德武國久君市川潔君五拾錢宛丸山久雄君島田勘四郎君小計拾四圓五拾錢

累計五拾二圓也

○卒業生諸兄に申す江畠前校長への寄附金は来る十一月十五日迄に御送附相成度會計上の都合も有之候間夫迄に切上度何卒御承知願上候

## 謹 告



拜啓時下新涼の候各位益々御清康奉慶賀候  
陳者不肖儀今般木曾山林學校長被命八月十七日を以て着任致候に就ては學校長として將又校友會長として盡瘁乍不及向上の一路を辿り度考に有之候將來自然各位の御贊同御援助を乞ふ事多々可有之尙又各位の御希望御註文も渺からざる事と存候へば互に胸襟を披き双方便益を得て偏に學校將來の爲又校友會前途の爲盡力致度不堪希望候追々本誌上を借りて卑見可申述候へ共新任の初に當り不敢御挨拶旁右申上度如此に御座候不一

大正元年九月十六日

卒業生各位 安藤時雄